

仏歴2558 (2, 014) 年12月
〒731-3701

広島県山県郡安芸太田町大字上筒賀261-1
住職 城山大賢 坊守 城山美知子

TEL (FAX兼) 0826 (32) 2637

(携帯) 090, 7978, 7259

パソコンメール houshouji@hi.

enjoy.ne.jp

URL <http://ww7.enjoy.ne.jp/~houshouji/>

郵便振替口座 01370 (8) 43316

聖典学習会のご案内

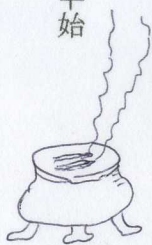
24日(水) 朝・昼

朝9時半・昼2時半始

学習聖典・無量寿経

住職自修 参加費無用

聖典から人生・社会の諸問題を問うてみましょう。
どうぞ誘って気楽にご参加下さい



前回の学習内容《阿弥陀仏の願い》から

「私が仏になるとき、私の国に地獄や餓鬼や畜生のものがあるようなら、私は決して悟りを開きません。」

衆議院選挙が始まりました。

各政党も、私たちもどういう国創りを目指したらいいのでしょうか。

最初に掲げたものは、阿弥陀仏の前身の法蔵菩薩の第一番目の願いです。

一番初めの願いということとは、かなり重要視したいと思います。

この願いを読み解くとき、この衆議院選挙による、私たちの人づくり、国創り、社会づくりもこのようでないならばならないとわかるように思います。

この無量寿経の創作者は、今から2000年前のインドの人民や社会を見て、どういうありかたが、人間や社会の幸せなありかたであるのかということを考えて、そうだ、これだと思いを定めて、法蔵菩薩の願いとして表現したものと思えます。

この願いは、法蔵菩薩が修業して、素晴らしい人づくり、国創りとは、国の中に、地獄や、餓鬼や、畜生がない国創りであるとして、そういう国創りが出来ないようなら、決して、悟りなんか開かないし、仏にもならないぞという誓願であり、決意表明であると思えます。

まず、地獄とは何かということですが。

地獄とは、人格において、最低最悪の世界といえます。地獄の真反対の世界が、人格において、最高最善の世界である、仏や浄土になります。

地獄には、鬼と亡者がいますから、つまり地獄とは、

痛め苦しめるものと、痛められ、苦しめられるものがある世界といえます。

今、中東のイスラム国では、イスラム国に相反するものや敵対するものとして、米英のジャーナリストが、とらえられて米英に見せしめに首を切り落とされた映像をインターネットで世界中に配信しています。

また反対に、このイスラム国を殲滅するというところで、シリアや、アメリカは空爆で報復の殺戮をして、市民も巻き添えを食っています。

そのために、たくさんの方々の難民が過酷な国外流浪の苦しみを受けています。

地獄とはこのような、闘争の報復合戦に明け暮れて、共に、悲惨で、人間としての求道心が不毛である状況の象徴と言えます。

次に餓鬼とは何でしょう

餓鬼とは、おなががすいて、のどが渴いて、栄養失調状態で手足が枯れ木のようにやせ細っていてもお腹だけは膨らんでいてどんなに飲食を欲しても、口に入らず、飢餓で苦しんでいる状態です。

アフリカなどで、部族や宗教対立で抗争に明け暮れるために、難民になった、栄養失調状態の子供たちの状況がそうといえます。

餓鬼には二通りの餓鬼があつて、一つは、無財餓鬼、これは、財産がないから、飢えている餓鬼です。

もう一つは、有財餓鬼で、財産があつても、まだなお財産をむさぼる餓鬼です。

餓鬼とは、このように、財があつても無くても、むさぼりのために、人間としての求道心が荒廃している状態の象徴と言えます。

次に畜生とは何でしょう

畜生とは、動物的本能のままに行動する状態で食欲、睡眠欲、性欲、物欲、名譽欲、支配欲など、欲望のままに行動し、競争で勝者になれば高慢で差別者になり、敗者になれば報復への恨みと憎悪の状態を言います。

今、ヘイトスピーチといつて、在日特権を許さない市民の会と名乗る人たちが、在日の朝鮮民族の人々を「日本から出て行け」など、さらにもっとひどい暴言を吐いている状況があり、また、このヘイトスピーチに対し、売り言葉に買い言葉で、「帰れや！クズ！ボケ！カス！死ぬ」などとなる、「しばき隊」といわれる人々のような状況にこの畜生状態を思います。

畜生とは、このように、自己中心な欲望や敵対衝動の報復合戦で人間としての求道心が荒廃している状況の象徴と言えます。

以上、この法蔵菩薩の第一願から、仏教徒というものは、このように、地獄、餓鬼、畜生という、戦争、飢餓、差別といった状況の中で、人間としての求道心が荒廃している人間と社会を導き解放しようとするものであることを示しているし、さらに、こういう戦争、飢餓、差別のない人づくり、国創り、社会づくりを目指すことを示そうとしているものであると学びます。

安倍首相が、衆議院を解散したのはなぜでしょう。まだ低所得者層まで経済効果が上がっているとは言えないので、来年の消費税10%アップを引き延ばすとはいえ、今、急に630億円もかけて選挙をする必要があるのか不信です。

識者も言っていました。小淵、松島二人の女性閣僚の失脚、その後任、宮沢議員等の会計疑惑問題、そして、沖縄県知事選での普天間基地、辺野古移転反対派の当選大企業には景気アップでも、中小企業はそうでなく、国民低所得層には、むしろ消費税8%アップでの生活苦の増大など、安倍政権にとってマイナス色をいったん振り払うためのよう感じます。

安倍首相にとつて、このマイナス色のため、選挙で少しは与党議員が減つても、決して負けることはないと思込んでいますから、総選挙でみそぎを受けていよいよ、安倍首相の念願である、憲法改定による、戦争のできる、富国強兵の国づくりに着手するつもりです。

ともあれ、解散して、選挙となつたからには、今までの安倍政権を点検して、そして、あるべき、よりよい国づくりとは何かを私たちの国民一人一人の責任として考えたいと思います。

そして、本当の国創りにふさわしい、考え方の政党なり、衆議院議員を選びたいと思います。

上記に示しましたように、私たち仏教徒として考える本当の国創りとは、人間としての求道心が荒廃している人間と社会を導き解放し、戦争、飢餓、差別のない国創り社会づくりを目指すものであるといえます。

安倍政権は、ご承知のように、今まで政府で認められなかった、集団的自衛権の行使を、正式な憲法改正の手續きによらず、法の番人といわれる、内閣法制局長官を集団的自衛権容認の考え方の人物に首をすげ替えて閣議決定ということで認めました。

自民党の憲法改正草案も、天皇を元首化し、憲法9条を変え、自衛隊を国防軍という正式な軍隊にし、基本的人権、永久尊重の97条を削除し、国民の自由も、国家権力の秩序、公益に反してはならないということ、国家権力に逆らうことを許さないという、国家権力に、国民を従属させる憲法に変えようとしています。

これでは、本来、憲法とは、国家権力を縛るものであるのに、逆に、国家権力が国民を縛ることになり、誠に、改憲は、壊憲ということと思えます。


教育も、愛国心が強調され、道徳が教科とされ、日本のかつての戦争を国の罪として反省しない教科書を用いるような動向が見えます。

かつての戦争を謝罪していない靖国神社への公式参拝を否定せず、慰安婦問題謝罪でも否定的な対応で、また、民主主義なら、国家は政治をオープンにすべきはずのところ、特定秘密保護法が制定されて、いよいよ国民が自隠しをされるようなことが強まりました。

来年度の地方統一選挙が終わりに、いよいよ、安全保障法制で、米国の国防戦略が決められてゆきます。

大企業の内部留保金は増大しても、労働者の賃金は逆比例で少なくなっている等・・・どうでしょう？

おにぎり会のご案内
 12月20日(土)
 あさ10時〜ひる1時まで
 ご都合のつく時間に参加ください
 本願寺さまに
 申し込みます。
 ほこちゃん
 みよ作



雪が積もり、本格的な冬となりました。寒さも厳しくなりました。皆さまどうぞお大切に念じます。さて、今年最後のおにぎり会のご案内です。12月は忙しい月なのですが、「月に一度」を守って聞きます。ご都合のつく方はぜひご参加ください。

前回は、「しんらんさま」思徳讃(旧譜)など、仙教讃歌を歌いました。住職がコタツを用意してくれましたので、コタツを囲む方あり、イスの方もありという自由な雰囲気となりました。

「明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬもやは」の歌は、人生経験の長い皆さまの方が経験深く、うなづき合って語りました。それからひる1時まで、談笑いたしました。

野口雨情のうた

「悲しみの哲学」の本の中に、童謡作詞家・野口雨情の、びっくりするような歌を見つけました。有名な歌には「しゃぼん玉とんだ」雨降りお月さんなどがありませんね。紹介するのは次の歌です。

葱をすてたりや
 おれて枯れた
 捨てりや葱でも
 おれて枯れる
 お天道さま見て
 おら泣いた

野口雨情作詞(捨てた葱)

これら童謡は、中略
 今、尋常ではないという言い方をした。松岡正剛は、そうではない、と雨情の作品をこう評している。

これら童謡は異常なことばかりを歌おうとしているのでしようか。そうではないと思います。どんなことも安全ではないし、予定通りとはかぎらない、見た目ではないこともおこるし、有為転変があるのだということをお告げしているのです。それらはまさに子供に向かつて「無情」を突きつけているのです。いや、大人にも突きつけた。

子供に道徳を説いているのではない。教育したいのではない。雨情は道徳教育では伝わりつけないことを、もつと根底において見せたので、世界も社会も家族も、町も人形もしゃぼん玉も壊れやすいものなのだ、ということ、それらはすでに壊れていることも、壊れたからといって、そのことに感情をもてなくなつてはもつと何かを失うだろうということ、を、告発していたのです。(『日本という方法』)